

# 『業務再開』のための『闘争破壊』

## 日刊 動労千葉

80. 8. 1

No. 497

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八・九(公衆)三三三二七二〇七

### 暫定貨車輸送延長の推進者

### 「本部」反動分子―土屋・嶋田を許すな!

スパイ・裏切分子は「本部」革マル反動分子に指導されて「業務再開」なるペテンを開始しました。「誰が組合員であるか」ということをはっきりさせることができず、「いつ、誰が、いかなるきまり(規約・規則)に基いて役員に選出されたのか」ということも全く明らかにできないユウレイ組織である実態は、この間本紙上で明らかにしてきた通りですが、昨年の全国大会に参加した「七名」の域を少しも出ていない「業務再開」が一体何のためにデッチ上げられたのかということについて、再度見てゆきたいと思えます。

#### なぜ「津田沼」と「佐倉」なのか

「本部」反動分子は「津田沼」と「佐倉」で「業務再開」した旨を当局に通告し、「団交」再開を申し入れました。

われわれは、まず第一に、何故に「津田沼」と「佐倉」なのかということを見なければなりません。

それは、津田沼、佐倉両支部が「総武国電」と「三里塚・ジェット」の拠点であり、動労千葉の戦略的基軸を担っているということとです。首都圏国電において、上尾暴動以降、名目的な減産闘争しかでき得なくなっているという状況の中で、唯一、総武線のみが、いかなる反動も弾圧もはね返して断固として「音の出る」減産闘争を闘い抜いてきたという厳然たる事実も誰でも知っている通りです。

この権力・当局が最も恐れる津田沼支部の戦闘性を破壊する尖兵として―東洋大卒革マル・嶋田をスパイとしてもぐり込ませることまでして―「本部」反動分子が出てきたのです。

#### 裏切者を手先とする ジェット闘争への介入策動

そして、佐倉支部が成田支部とともに、三里塚・ジェット闘争を担う支部として、権力・当局にとって「最も邪魔になる」動労千葉の拠点であることも周知の事実です。

名古屋市で八月末に開催される第三六回動労全国大会方針書には、総括部分で「反対同盟と一線を画したことは正しかった」としながら、方針部分では「成田・空港問題は、社会党・総評の方針にもとづいて、二期工事中止と空港の全般的再検討を含め対処することとします」と書かれています。

社会党も総評も「反対同盟と一線を画す」などということも一度も決定していません。

ここに「本部」反動分子の路線的破産は何よりも鮮明に突き出されていますが、同時に、「本部」反動分子が「五六・三ジェット燃料貨車輸送期限切れ」の時を狙って権力・当局の尖兵として、佐倉支部の土屋粹等の裏切者を手先として介入しようとする意図は見え見えだと言わなければなりません。

#### スパイ、裏切分子を許すな!

われわれは、三年前の「本部」反動分子の三里塚・ジェット闘争に対する裏切りとデマを、怒りをこめて想起しなければなりません。

第三三回全国大会(水上大会)の決定を無視してジェット燃料輸送用の機関車を千葉へ送り込んだのは誰か。

本部・本社交渉での当局提案をそのまま「本部指令である」として千葉に押しつけたのは誰か。

このような事実を全く正反対にネジ曲げて、全国戦術委員長会議の資料をそのまま革マル派に流し、その資料に基づく革マル派機関紙のデマ記事を唯一の根拠に「千葉地本が裏切った」なるペテンをデッチ上げたのは一体誰か。

権力の暴虐と闘う農民・人民に連帯する気持などはツユほどもなく、千葉の動力車職場を守る気などはサラサラなく、ただただセクト的立場からのみ権力の武装親衛隊として、闘争を背後から襲撃することに専念する「本部」反動分子の策動を断固粉碎しよう。

自分の利害だけで「本部」反動分子の手先となる裏切者の敵対を許すな!

動労千葉破壊のためだけにめぐり込んだ東洋大卒革マルスパイ・嶋田を徹底して弾劾せよ。